

整形外科

(2024 年 3 月在職者名)

整形外科部長	馬渡 太郎
リハビリテーション科医長	馬場 省次
整形外科医師	河野紘一郎、末田 麗真、萩尾 聡、原田 知、遠矢 政和 中川 雄介

▶ 活動内容

浜の町病院整形外科では、変形性関節症や関節リウマチなどの関節疾患、外傷、スポーツ障害を中心とした診療を行っている。特に人工関節置換術においては最新のナビゲーションシステムやロボティックアーム支援技術を駆使し、低侵襲で正確なインプラント設置を行っている。一方、脊椎脊髄疾患や悪性腫瘍、小児疾患等は現状では対応困難である。以下に当院で行っている代表的な手術について紹介する。

関節温存手術：膝関節の骨切り術

変形性膝関節症の程度によって、自らの関節を温存する膝関節周囲骨切り術を行っている。O脚で膝関節外側の状態が良い場合などが適応で、通常は 65 歳くらいまでの方を選択する。下腿や大腿骨の骨切りを行ってアライメントを矯正し、プレートで固定する。自らの関節を温存するため、スポーツ復帰も可能である。

人工膝関節置換術

進行期や末期の変形性膝関節症に対して、傷んだ関節面をインプラントに置換し、まっすぐな脚に矯正する。手術翌日から歩行訓練を開始して 2 週間程度で退院し、日常生活はほとんど困らないようになる。症例に応じて全置換と単顆置換、高度な変形には拘束型インプラント、など機種を使い分けている。ナビゲーションやロボティックアーム支援技術を併用することで正確な骨切りやインプラント設置を実現し、成績向上に努めている。

外 傷

近隣医療機関からの紹介や救急搬送された骨折症例に対して、最新の知見に基づいた治療方針で手術を行っている。大腿骨近位部骨折においては、他科と連携しながらできるだけ早期手術、リハビリを行うことで早期機能回復に努めている。

半月板損傷、靱帯損傷に対しては、関節鏡を用いて低侵襲手術を行っている。

関節温存手術：股関節の骨切り術

関節軟骨の残存する 17 ～ 45 歳の寛骨臼形成不全症に対して、骨切り術（寛骨臼移動術）を行っている。骨盤側の骨を球形に切って回転させることで大腿骨頭の被覆を正常な状態に矯正する。術後 2 週

から部分荷重歩行訓練を開始し、6週程度で退院となる。術後2ヶ月くらいは杖が必要であるが、自らの股関節を残せることが最大の魅力である。ナビゲーションを併用し、正確な手術に努めている。

人工股関節全置換術

進行期・末期の股関節症や大腿骨頭壊死症に対して、痛んだ関節面をインプラントで置き換える。術翌日から歩行器や杖での歩行訓練を開始し、術後1～2週で退院となる。当科では以前より8～9cmの小皮切で手術を行っていたが、近年世界に先駆けて、股関節周囲の筋肉と関節包靱帯への侵襲の少ない手技（CPPアプローチ）を開発して良好な術後成績を得ている。更にナビゲーションやロボティックアーム支援技術を併用することで成績向上に努めている。

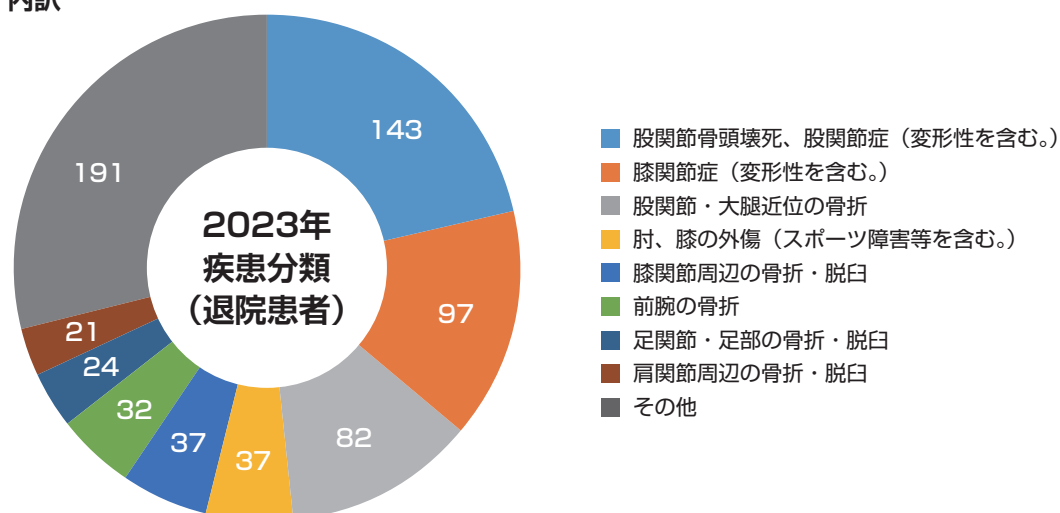
外反母趾手術

中程度～重度の外反母趾に対して、最新の技術を導入し、小皮切で骨切り・矯正固定を行う低侵襲手術を行っている。

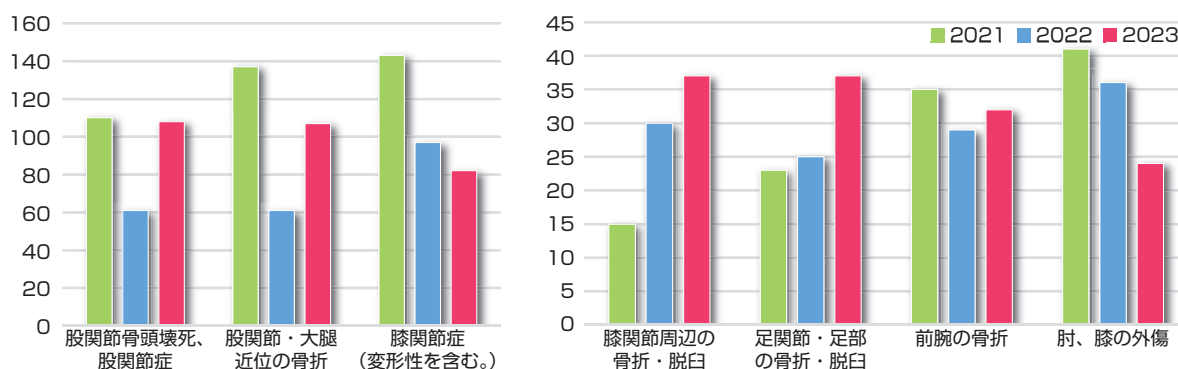
肩関節鏡手術

肩腱板損傷に対して、腱板修復や肩峰下除圧などの関節鏡視下低侵襲手術を行っている。

▶ 入院患者 内訳



▶ 疾患別入院患者 年次推移



▶ 外来患者数

	2021	2022	2023
新 患	620	632	602
再 来	7,906	8,221	8,161
計	8,526	8,853	8,763

▶ 入院患者数

	2021	2022	2023
入 院	573	605	647
延べ患者数	9,837	11,535	11,138
平均在院日数	15.7	17.5	15.7

▶ 手術件数推移

手 術 法			2021	2022	2023
合 計			704	704	782
脊椎			0	0	0
四肢外傷	大腿骨近位部骨折		62	62	88
	骨折・脱臼		133	133	150
	腱損傷・その他		3	3	9
骨軟部腫瘍	良性		6	6	7
	悪性		0	0	0
上肢・手	人工関節（骨頭）置換術（外傷を除く）	肩	0	0	0
		肘	0	0	0
		手指	0	0	0
	関節鏡視下手術	肩	1	1	2
		肘	0	0	0
		手	26	26	0
	関節形成術（骨切他）		0	0	0
	神経、筋腱		9	9	37
	その他		29	29	16
下肢	人工関節（骨頭）置換術（外傷を除く）	股	150	150	169
		膝	106	106	75
	関節鏡視下手術	股	0	0	0
		膝	64	64	73
		足	0	0	2
	関節形成術（骨切他）		36	36	45
	神経、筋腱		2	2	11
	その他		77	77	98

▶ 入院患者年齢構成

年齢	2021	2022	2023
10歳未満	3	2	1
10代	20	19	18
20代	23	19	16
30代	22	17	23
40代	37	35	45
50代	82	72	75
60代	113	115	137
70代	144	160	171
80代	100	131	125
90以上	29	35	36
計	573	605	647

▶ 地域別紹介患者数

		2021	2022	2023	平均
福岡市	中央区	325	358	288	324
	早良区	69	82	71	74
	博多区	66	77	65	69
	城南区	63	47	60	57
	東 区	69	65	53	62
	西 区	46	48	45	46
	南 区	38	25	35	33
福岡市計		676	702	617	665
県 外		54	57	69	60
糟 屋 郡		40	36	28	35
糸 島 市		12	13	21	15
大 野 城 市		10	16	12	13
春 日 市		9	13	11	11
宗 像 市		9	3	9	7
太 宰 府 市		5	1	8	5
飯 塚 市		4	2	8	5
北 九 州 市		3	9	7	6
古 賀 市		12	0	5	6
福 津 市		6	1	5	4
そ の 他		14	23	17	18
総合計		854	876	817	849

2023 年 学会発表

演者名	共同研究者	演題名	学会名	発表年月日	開催地
馬渡太郎		骨粗鬆症治療の新しい潮流	第 390 回福岡臨床整形外科医会教育研修会	2023 01/12	福岡県
馬渡太郎		改めて考える骨粗鬆症の評価と治療	二次性骨折予防セミナー	2023 02/02	福岡県
馬渡太郎		骨粗鬆症診療最前線	第 1 回福岡市中央区三師会地域医療講演会	2023 02/06	福岡県
馬渡太郎		あらためて考える骨粗鬆症の評価と治療	Progress of Therapy on Osteoporosis Web Seminar in 九州・沖縄	2023 02/10	福岡県
馬渡太郎		血友病性関節症	血友病性関節症を考える会	2023 02/18	福岡県
馬渡太郎		骨粗鬆症治療の新しい潮流	骨粗鬆症診療 WEB セミナー 2023	2023 02/22	北海道
馬渡太郎		あらためて考える骨粗鬆症の評価と治療	和歌山県医師会整形外科部会講演会	2023 03/23	和歌山県
馬渡太郎		CPP-BHA	九州大学股関節教育セミナー	2023 04/09	福岡県
馬渡太郎		Reflections on Our Time at the Farm and Beyond: Etiology and Treatment of Osteoarthritis	Stanford Reunion in Japan 2023 国際シンポジウム	2023 05/05	福岡県
馬渡太郎		あらためて考える骨粗鬆症の評価と治療	Bone Metabolism Forum (九州大学第三内科)	2023 05/29	福岡県
馬渡淳太	萩尾 聡 末田麗真 馬場省次	骨粗鬆症治療は大腿骨転子部骨折の後外側支持欠損を予防できるか	第 145 回西日本整形・災害外科学会学術集会	2023 06/04	福岡県
馬渡太郎		糸と結び 一整形外科的縫合を究めるー	第 49 回日本骨折治療学会教育研修講演	2023 07/01	静岡県
馬渡太郎		ステロイドと骨粗鬆症	第 4 回生物学的製剤適正使用研究会 (九州大学神経内科)	2023 07/18	福岡県
馬渡淳太	原田 知 末田麗真 馬場省次	骨粗鬆症治療の大腿骨転子骨折形態への影響～後外側支持欠損予防～	第 51 回日本関節病学会	2023 07/21	東京都
馬渡太郎		健康寿命延伸と Window - 骨粗鬆症と関節疾患 -	第 14 回県民公開医療シンポジウム	2023 09/02	福岡県
馬渡太郎		血友病性関節症	血友病性関節症を考える会	2023 09/14	福岡県
馬渡太郎		あらためて考える骨粗鬆症の評価と治療	第 4 回 佐賀県 OLS 研究会	2023 09/15	佐賀県
萩尾 聡	馬渡淳太 末田麗真 馬場省次	骨粗鬆症治療の大腿骨転子部骨折後外側骨片への影響	第 25 回日本骨粗鬆症学会	2023 09/30	愛知県
馬場省次	河野紘一郎 萩尾 聡 井上逸人 馬渡太郎	治療方針の決定に苦慮した大腿骨ステム周囲骨折の 1 例	第 65 回福岡整形外科外傷研究会	2023 10/07	福岡県
馬渡太郎	馬場省次 萩尾 聡 末田麗真 馬渡淳太 Tony M Keaveny	Establishing Japanese Osteoporosis Equivalent Femoral Strength Using Biomechanical CT (E-JOS Femoral Study)	ASBMR2023Annual Meeting (米国骨代謝学会)	2023 10/14	カナダ
萩尾 聡	原田 知 河野紘一郎 馬渡太郎	Vitamin D Status in Patients with Non-Vertebral Fragility Fractures	ASBMR2023Annual Meeting (米国骨代謝学会)	2023 10/14	カナダ
馬渡淳太	馬渡太郎 馬場省次 河野紘一郎 末田麗真 原田 知 Tony M Keaveny	Establishing Japanese Osteoporosis Equivalent Vertebral Strength Using Biomechanical CT (E-JOS Vertebral Study)	ASBMR2023Annual Meeting (米国骨代謝学会)	2023 10/15	カナダ
馬渡太郎	萩尾 聡 伊東孝浩	病院受診患者のビタミン D 充足状態の検討	第 72 回共済医学会	2023 10/26	福岡県
馬渡太郎		CPP アプローチを用いた人工股関節全置換術	第 50 回日本股関節学会学術集会	2023 10/27	福岡県
馬渡太郎		骨と軟部組織に配慮した股関節手術～骨粗鬆症治療も含めて～	第 50 回日本股関節学会学術集会	2023 10/27	福岡県
馬渡太郎		骨粗鬆症評価と管理の工夫	第 50 回日本股関節学会学術集会	2023 10/28	福岡県
萩尾 聡	馬場省次 末田麗真 河野紘一郎	非椎体骨折の血清 25 (OH) D 濃度の検討～大腿骨近位部骨折に着目して～	第 50 回日本股関節学会学術集会	2023 10/28	福岡県
馬渡太郎		骨粗鬆症診療の新展開 ～治療継続のためのチーム医療～	第 13 回 Pharmacy Seminar	2023 10/31	福岡県
馬場省次	馬渡太郎	整形外科病棟における入院患者の転倒の要因と対策	第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	2023 11/04	宮崎県
原田 知		Wear analysis of the first-generation cross-linked polyethylene at minimum 10 years follow-up after THA: no significant effect of sports participation	第 61 回日本人工臓器学会大会	2023 11/10	東京都

2023 年 論文掲載

著者名	共著者名	演 題	雑 誌 名	年	巻号	ページ
Endo, M.	Kawahara, S. Sato, T. Tokunaga, M. Hara, T. Mawatari, T. Kawano, T. Zenda, S. Miyaji, T. Shimokawa, M. Sakamoto, S. Takano, T. Miyake, M. Aono, H. Nakashima, Y.	Protocol for the RETHINK study: a randomised, double-blind, parallel-group, non-inferiority clinical trial comparing acetaminophen and NSAIDs for treatment of chronic pain in elderly patients with osteoarthritis of the hip and knee	BMJ Open	2023	13	e068220
馬渡太郎	大石正信	亜脱臼性股関節症に対する寛骨臼移動術の術後成績に及ぼす影響の検討（共同研究事業報告 IV）	共済医報	2023	72	159-163
馬渡太郎		骨と軟部組織に配慮した股関節手術（教育講演 I）	共済医報	2023	72	24-32
Yoshino, S.	Kawahara, S. Hara, T. Nakamura, T. Shin, S. Mawatari, T. Motomura, G. Hamai, S. Ikemura, S. Fujii, M. Nakashima, Y.	Anterior superior iliac spine is not always reliable as a pelvic reference axis. -3D study of pelvic axis	Journal of Orthopaedic Science	2023	28	677-682
Tsutsui, T.	Fujiwara, T. Matsumoto, Y. Kimura, A. Kanahori, M. Arisumi, S. Oyamada, A. Ohishi, M. Ikuta, K. Tsuchiya, K. Tayama, N. Tomari, S. Miyahara, H. Mae, T. Hara, T. Saito, T. Arizono, T. Kaji, K. Mawatari, T. Fujiwara, M. Takasaki, M. Shin, K. Ninomiya, K. Nakaie, K. Antoku, Y. Iwamoto, Y. Nakashima, Y.	Geriatric nutritional risk index as the prognostic factor in older patients with fragility hip fractures	Osteoporos International	2023	34	1207-1221
河村正太郎	馬渡太郎 萩尾 聡 末田麗真 末次弘征 河野紘一郎 馬場省次	変形性股関節症における骨粗鬆症の評価	Hip Joint	2023	49(1)	218-223
橋澤空良	萩尾 聡 末田麗真 原田 知 河野紘一郎 馬場省次 松井 元 馬渡太郎	広範囲骨欠損を伴う人工股関節のゆるみに対し金属補填材料を用いて人工股関節再置換術を行なった 1 例	整形外科と災害外科	2023	72(3)	410-414
Kitade, K.	Mawatari, T. Baba, S. Sueda, R. Hagio, S. Kawahara, S. Ikemura, S. Nakashima, Y.	Vitamin D status-associated postoperative complications in patients with hip dysplasia after periacetabular osteotomy: A case-control study	Modern Rheumatology	2023	33(6)	1176-1182

書籍

著者名	共著者名	書 名	出版社	編集	ページ	年
馬渡太郎		Conjoined tendon preserving posterior (CPP) approach, 「人工股関節置換術」	南江堂	日本人工関節学会編集	279-286	2023

(整形外科部長 馬渡 太郎)